

雅ねえの、みんなで取り組む

獣害対策講座 Vol.14

※タイトルに記載している『雅ねえ』の表記は、本人の原稿どおりで掲載の了承を得ています。

テレビ、新聞、ラジオ、どれもこれも、新型コロナウイルスの感染、相次ぐスポーツ大会やイベントの中止、公共施設の閉鎖、不景気、マスク足りない、食料品やトイレトーパーが品薄・・・って暗いニュースばかり。

なんとなく気持ちも落ち込みがち、集落にまで暗い気分を含んだ霧がかかっているんじゃないかって思えてくる。

でも、こんな時こそ、上手に気分転換。

新聞やテレビ離れて、思いっきり外に出て、庭や畑、普段はめったに足を入れることのなかった竹藪や雑木林歩いてみてはどうかしら。どれだけコロナめが猛威をふるおうと、関係なく季節は進んで周りは新緑。

この際、暗いニュースは忘れて、代わりに文明社会の中で疎遠になりがちな植物や動物ちと濃厚接触してみましょ。

おまひのうま習

前回

前は連載2年目に突入というわけで、1年目の連載の総集編、繰り返し繰り返して

申し訳ないけど、獣害って動物が悪いのではなくて、動物を田畑や集落に餌付けした人間って話の繰り返しの繰り返し。

そして農家さん以外の方にも読んでいただきたいから、農作物以外の被害について、校庭のサル対処、児童をサルから守るには先生にも知識が必要って例も交えた話をしたよ。

覚えてるかしら？。

今回

あのね、動物はネズミもトンもタヌキもシカもイノシシも、「安心して食べる所に住みたいだけ」って何回も言ってきたけど、じゃあ、動物にとつての安心して何なのか、ちよつと考えてみましょ。

あつ、休校中のオンライン授業にならって誌上屋外実習つけておいたからね。

ホシは土地勘のあるやつ

ドラマの刑事ものでね、捜査本部の会議室。それまでだまって説明に耳を傾けていた主人公の刑事が言うのよね。「ホシは土地勘のあるヤツだな」って。

で、容疑者の過去の住所や勤め先を洗いだすために駆け出してゆく。

そして視聴者はみんな、土地勘って何となくその辺に詳しいってことか、くらいに理解してる。

車や鉄道、船に航空機といった様々な移動手段、地図、GPS、携帯と様々な情報を得る手段を持つ人間にとつては、会いたい、買いたい、見たい目的地への移動ってそれほど土地勘って必要ない。

けど、集落会費の集金、通学時の道草、山菜とりなんかは土地勘がたより。

動物は土地勘がすべて

じゃあ、動物はっていうと、身を守る、餌にありつく、すべて土地勘だけが頼りなのよね。

動物の土地勘とは自分の足で実際に何度も歩いて確かめて積み上げた地理的情報。

自分で毎日少しずつ少しずつ広げた土地勘だけを頼りに動物は動いてる。

そして、土地勘のできた範囲が安心ゾーン。

安心ゾーンでは例え人間が現れても、土地勘を働かせて

一番手っ取り早い潜み場に迷うことなく身を隠せるでしょ。

で、身を隠していると人間は道以外歩かないとか、身を隠して音さえ立てなければ気づかないとかいろいろ学習する。

そして、人のニオイやケハインに平気になってくる。

動物に畑の野菜食われたってことは、あなたの畑も食った動物の安心ゾーンになっちゃってる証拠。

つまり、獣害ってすべて土地勘のあるヤツが引き起こしてるわけ。

そして、土地勘はたとえイノシシでも一頭ごとにちがう。あなたの畑荒らしてるイノシシはあなたの畑やその周辺の土地勘のあるヤツ。

